

## 横浜市感染症発生動向調査報告 2月

### 《今月のトピックス》

- インフルエンザ報告数が警報解除基準値(10.00)を下回りました。
- 風しんの報告数が多い状態が続いています。

#### ◇ 全数把握の対象

##### 〈2月期に報告された全数把握疾患〉

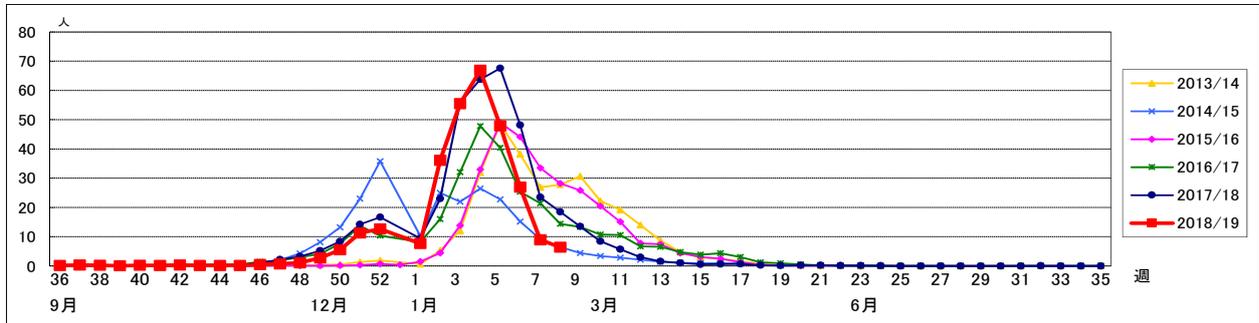
|                    |    |                      |     |
|--------------------|----|----------------------|-----|
| 腸管出血性大腸菌感染症        | 3件 | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症       | 3件  |
| 腸チフス               | 1件 | 後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む) | 2件  |
| E型肝炎               | 2件 | 侵襲性インフルエンザ菌感染症       | 2件  |
| レジオネラ症             | 3件 | 侵襲性肺炎球菌感染症           | 8件  |
| アメーバ赤痢             | 2件 | 梅毒                   | 10件 |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 | 6件 | 百日咳                  | 15件 |
| 急性脳炎               | 5件 | 風しん                  | 16件 |
| クロイツフェルト・ヤコブ病      | 1件 | 麻しん                  | 1件  |

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が3件ありました。
- 腸チフス: ミャンマーでの経口感染と推定される報告が1件ありました。
- E型肝炎: 経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が3件あり、感染経路等不明でした。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が1件、腸管および腸管外アメーバ症の報告が1件あり、いずれも感染経路等不明でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 6件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 幼児の報告が4件、小児の報告が1件あり、病原体はインフルエンザが4件、不明が1件でした。
- クロイツフェルト・ヤコブ病: その他の孤発性プリオン病の報告が1件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 50歳代のA群、B群、90歳代のG群の報告が1件ずつありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が1件(同性間性的接触)、その他の報告が1件(感染経路等不明)ありました。いずれも男性でした。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が2件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児の報告が1件(ワクチン接種あり)、40歳代の報告が2件(ワクチン接種なし1件、不明1件)、60歳代の報告が2件(ワクチン接種なし1件、不明1件)、70歳代の報告が2件(ワクチン接種なし)、80歳代の報告が1件(ワクチン接種不明)ありました。
- 梅毒: 10件の報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件、晩期顕症梅毒2件)がありました。感染地域は国内8件、台湾が1件、不明が1件でした。感染経路は異性間性的接触が8件、詳細不明の性的接触が1件、感染経路不明が1件でした。男性7件、女性3件でした。
- 百日咳: 10歳未満では乳児が2件(ワクチン接種なし)、幼児が2件(ワクチン接種あり)、小児が6件(ワクチン接種あり5件、不明1件)の報告があり、10歳代で2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)、30歳代で1件(ワクチン接種不明)、40歳代で2件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 風しん: 検査診断例16件が報告されています。20歳代6件(ワクチン接種なし1件、不明5件)、30歳代4件(いずれもワクチン接種不明)、40歳代4件(ワクチン接種あり2件、なし1件、不明1件)、50歳代2件(ワクチン接種不明)でした。男性12件、女性4件でした。
- 麻しん: フィリピンでの感染と推定される10歳代の報告が1件ありました。

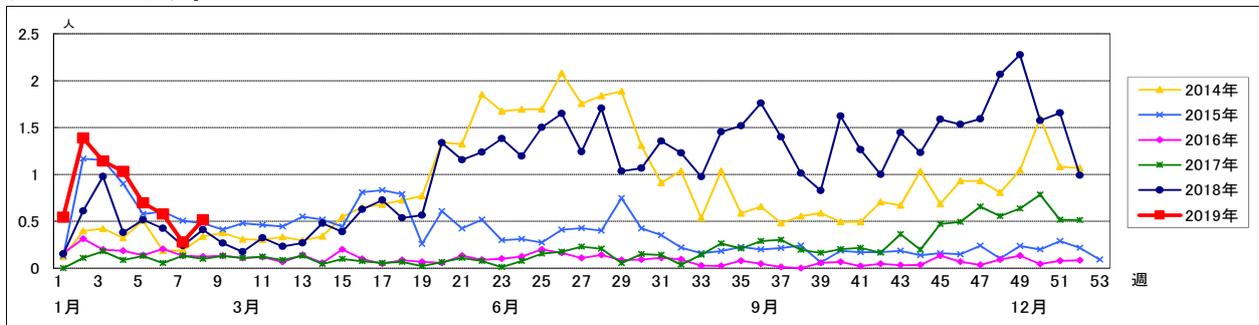
◇ 定点把握の対象

1 インフルエンザ: 2018年第48週に定点あたり1.07にて流行開始し、第51週に11.31にて注意報発令、2019年第2週に36.08にて警報発令されました。第4週に66.88でピークとなった後、第7週に8.91にて警報解除となりました。第8週は6.44となっています。

| 報告週対応表 |             |
|--------|-------------|
| 第5週    | 1月28日～2月3日  |
| 第6週    | 2月4日～2月10日  |
| 第7週    | 2月11日～2月17日 |
| 第8週    | 2月18日～2月24日 |



2 伝染性紅斑: 2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。2018年第48週で2.07となり警報発令基準を上回りましたが、第8週では定点あたり0.52となっており、警報解除基準値を下回っています。



3 性感染症(1月)

|            |        |        |               |        |        |
|------------|--------|--------|---------------|--------|--------|
| 性器クラミジア感染症 | 男性:20件 | 女性:31件 | 性器ヘルペスウイルス感染症 | 男性:3件  | 女性:14件 |
| 尖圭コンジローマ   | 男性:6件  | 女性:3件  | 淋菌感染症         | 男性:13件 | 女性:4件  |

4 基幹定点週報

|                   | 第5週  | 第6週  | 第7週  | 第8週  |
|-------------------|------|------|------|------|
| 細菌性髄膜炎            | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 無菌性髄膜炎            | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| マイコプラズマ肺炎         | 0.50 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| クラミジア肺炎(オウム病を除く)  | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る) | 0.00 | 0.25 | 0.00 | 0.00 |

5 基幹定点月報(1月)

|                   |     |                |    |
|-------------------|-----|----------------|----|
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 11件 | ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 3件 |
| 薬剤耐性緑膿菌感染症        | 0件  | —              | —  |

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点60件、内科定点17件、基幹定点13件、定点外医療機関から搬入された検体は4件でした。

3月5日現在、ウイルス分離45株と各種ウイルス遺伝子23件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2月)

| 主な臨床症状<br>分離・検出ウイルス | 上 | 下 | イン | 咽  | RS | 皮下 |
|---------------------|---|---|----|----|----|----|
|                     | 気 | 気 | フル | (ア | ウ  | 気  |
|                     | 道 | 道 | エン | デ  | イル | 腫  |
|                     | 炎 | 炎 | ザ  | ノ  | ス  | ・  |
|                     |   |   |    | 感  | 感  | 縦  |
|                     |   |   |    | 染  | 染  | 隔  |
|                     |   |   |    | 症  | 症  | 気  |
|                     |   |   |    | 熱  |    | 腫  |
| インフルエンザ AH1pdm09型   |   |   | 12 |    |    |    |
|                     |   |   | 5  |    |    |    |
| インフルエンザ AH3型        |   |   | 29 |    |    | 1  |
|                     |   |   | 9  |    |    |    |
| インフルエンザ B型          |   |   | 1  |    |    |    |
| アデノ 型未同定            | 1 |   |    |    |    |    |
| アデノ 3型              |   | 1 |    |    |    |    |
| アデノ 5型              |   |   |    | 1  |    |    |
| ヒトメタニューモ            |   | 3 |    |    |    |    |
| RS                  |   |   |    |    | 1  |    |
| ヒトコロナ 229E or NL63  | 1 | 1 |    |    |    |    |
| ライノ                 | 1 | 1 |    |    |    |    |
| 合計                  | 0 | 1 | 42 | 1  | 0  | 1  |
|                     | 3 | 5 | 14 | 0  | 1  | 0  |

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

「菌株同定」依頼は、基幹定点からサルモネラ属菌2件、下痢原性大腸菌が2件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、肺炎球菌1件、腸管出血性大腸菌1件となっており、非定点からの依頼は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、非結核性抗酸菌2件、マイコプラズマ1件ありました。

保健所からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌6件、腸管出血性大腸菌2件、肺炎球菌2件、劇症型溶血性レンサ球菌2件等の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からレプトスピラ1件、食中毒菌1件、保健所から喀痰のレジオネラ属菌2件の検査依頼がありました。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌4件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(2月)

| 菌株同定 | 項目              | 検体数 | 血清型等   |
|------|-----------------|-----|--|
| 医療機関 | カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 | 1   | <i>Enterobacter aerogenes</i>  |
|      | 下痢原性大腸菌         | 2   | EAggEC:O111、病原関連遺伝子不検出:O25   |
|      | サルモネラ属菌         | 2   | <i>Salmonella</i> Bareilly, <i>Salmonella</i> Paratyphi B                                    |
|      | 腸管出血性大腸菌        | 1   | O157:H- VT1 VT2  |
|      | 劇症型溶血性レンサ球菌     | 1   | B群溶血性レンサ球菌 V型  |
| 非定点  | 肺炎球菌            | 1   | <i>Streptococcus pneumoniae</i> 型別不能   |
|      | マイコプラズマ同定       | 1   | <i>Mycoplasma hominis</i>  |
|      | 非結核性抗酸菌         | 2   | <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i><br><i>Mycobacterium shinjukuense</i>  |
| 保健所  | カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 | 4   | <i>Enterobacter cloacae</i> (1)、<br><i>Klebsiella oxytoca</i> (2)、<br><i>Pantoea</i> spp.(1) |
|      | カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 | 6   | <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、<br><i>Enterobacter cloacae</i> (5)                         |
|      | 腸管出血性大腸菌        | 2   | O157:H7 VT1 VT2、O157:H7 VT2  |
|      | サルモネラ属菌         | 1   | <i>Salmonella</i> Typhi  |
|      | 肺炎球菌            | 2   | <i>Streptococcus pneumoniae</i> 型別不能   |
|      | 劇症型溶血性レンサ球菌     | 2   | B群溶血性レンサ球菌 V型、<br>A群溶血性レンサ球菌 T28   |
|      | インフルエンザ菌        | 1   | <i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能   |

| 分離同定      | 項目      | 材料 | 検体数 | 同定、血清型等  |
|-----------|---------|----|-----|--|
| 医療機関 基幹定点 | レプトスピラ  | 血清 | 1   | 不検出(nested-PCR)  |
|           | 食中毒菌    | 便  | 1   | 不検出(ウェルシュ菌、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、腸炎ビブリオ、カンピロバクター、エルシニア・エンテロコリチカ、病原大腸菌) |
| 保健所       | レジオネラ属菌 | 喀痰 | 2   | 不検出(培養法)   |

| 小児科サーベイランス | 項目         | 検体数 | 同定、血清型等                  |
|------------|------------|-----|--------------------------|
| 小児科定点      | A群溶血性レンサ球菌 | 4   | A群TB3264 (1)、A群T型別不能 (3) |

【 微生物検査研究課 細菌担当 】